

## 2023 年度医療系研究科国際化推進事業実績報告書

|                   |   |  |
|-------------------|---|--|
| 申請代表者             | 氏 名 (ふりがな)<br>高 橋 香代子<br>(たかはし かよこ)               | 所 属 ・ 職 位<br>医療系研究科 感覚運動・統御医科学群<br>機能回復学／リハビリテーション学 教授 |
| 相手機関              | 機 関 名 (所在国)<br>長庚大学医学部 (台湾)                       |  |
| 新規・継続の別<br>交流計画期間 | 新規 ・ <u>継続</u> ( 2 ) 年目<br>3年間 ( 2022年度 ~ 2024年度) |  |

### I. 交流活動の区分 (該当する項目に○印)

|        |  |
|--------|--|
| 教育交流活動 | ① 海外学術機関の教員、学生の受入      ②医療系研究科の教員、学生の派遣<br>② ③医療系研究科の教員、学生と海外学術機関の教員、学生の教育に関する情報交換<br>④その他、医療系研究科の教員、学生と海外学術機関の教員、学生の教育交流に資するもの<br>( )   |
| 研究交流活動 | ①海外学術機関の研究者の受入<br>②医療系研究科の教員 (研究者) の派遣<br>③医療系研究科の教員 (研究者) と海外学術機関の研究者による共同研究の実施<br>④その他、医療系研究科の教員 (研究者) と海外学術機関の研究者の研究交流に資するもの<br>( )<br>[共同研究課題名：日本と台湾の架け橋となる革新的な作業療法研究の探索 ] |

### II. 交流活動

|               |   |
|---------------|---|
| 交流活動の概要 (申請時) | <p>本国際交流活動は、北里大学と長庚大学との協定を締結するための調査研究を目的とする。</p> <p>さらに、大学間交流協定を結ぶことにより、長庚大学大学院行動科学科と協力し、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究者の育成 (大学院生の受け入れ) ,</li> <li>2. 共同研究の基盤の構築,</li> <li>3. 共同研究を実施</li> </ol> <p>することで、両大学の教育および研究のレベルをさらに向上させることを目的とする。</p> <p>共同研究としては、両大学において研究が進んでいる上肢麻痺患者に対するロボットを用いた Hybrid Therapy が挙げられる。Hybrid Therapy とは、リハビリの量を補う手段としてのロボットと、リハビリの質の向上としての患者教育 (CI 療法, 認知行動療法) を組み合わせて実施する新しいリハビリテーションである。Hybrid Therapy については、国内外において実践報告の枠を出ていないのが実情であり、今後臨床研究が期待される研究領域である。</p> <p><b>交流計画期間の年度毎の予定</b></p> <p>1年目 (2022年度) : 大学間交流協定の締結, 共同研究の背景となる文献レビュー</p> <p>2年目 (2023年度) : 合同シンポジウムの開催, 共同研究の背景となる文献レビュー</p> <p>3年目 (2024年度) : 合同シンポジウムの開催, 共同研究の実施</p> |
|---------------|---|

## 2023年度の交流活動の概要・成果（実績）

### 1. 大学間交流協定の締結

オンラインにて内容を調整していた大学間交流協定を締結した（2023年5月4日に締結）。

### 2. 研究シンポジウムの開催

2024年2月21日から24日に、北里大学の教員及び大学院生を長庚大学(台北, 台湾)に派遣し、互いの研究内容について発表・議論する機会としてシンポジウムを開催した。また、議論を通して、今後の共同研究の可能性について検討を進めた。

### 3. 共同研究の背景となる質的データの収集

台北滞在時に、実際にロボットを研究や臨床で用いている療法士に、半構造化面接を実施し、Hybrid Therapyの研究計画に反映させる予定であったが、当初の研究計画時より台湾の医療保険制度に大きな変化があり、実際にロボット研究を進めている大学病院がほぼない状況であった。

代打案として、地域における「re-ablement事業」（介護予防を主とした、地域包括ケアシステムにおける作業療法プログラム）が活発化しており、作業療法の新しい領域としての地域づくりや介護予防事業での研究プロジェクトの立ち上げが積極的に検討された。

また、長庚記念病院のNICUを訪問し、極低出生体重児のアセスメントおよび作業療法について情報共有がなされた。北里大学においてもNICU卒業生のフォローアップを実施しており、技術交流およびデータシェアの可能性について検討がなされた。今後は外部研究資金の獲得に向けて、日本学術振興会の二国間交流事業への応募を視野に入れた準備を進めることとした。

今後の見通し

## 実質的な交流について

大学間交流協定を締結したため、次年度以降は実質的な交流を展開する予定である。

### 1. 共同研究の計画（2024年度上半期～）

「re-ablement事業」やNICUにおける共同研究の可能性について検討する。また、部研究資金の獲得に向けて、日本学術振興会の二国間交流事業への応募を視野に入れた準備を進める

### 2. 共同研究の基盤の構築（2024年度～）

共同申請者および医療系研究科の大学院生を1週間、相手機関に派遣し、日本での治験で培った臨床技能（①地域づくりや介護予防、②亭出生体重児およびNICUにおける作業療法介入）について、現地の協力施設でのトレーニングに従事する。

### 3. 研究シンポジウムの開催（2024年度下半期～）

2025年2月に長庚大学の教員および大学院生を北里大学（相模原キャンパス）招致し、互いの研究内容について発表・議論する機会としてシンポジウムを開催する。また、日本における介護予防事業やNICUでの作業療法やその後のフォローアップの内容についても、情報共有をする。

### 4. 共同研究を実施（2024年度下半期～）

データシェアの方法を検討しながら、円滑な共同研究を遂行する。

## 期待できる成果

1. 台湾からの大学院入学者を受け入れたいと考えており、志願者の増加にも繋がると考える。

2. また、医療系研究科の大学院生が研究活動に参加することで、英語でのディズカッションや発表の能力向上が見込まれる。これらの経験は、国際的な視野と国際的に活躍しうる能力を持った大学院生の排出にも繋がると考える。